

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名	国内都市交流事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	正木良一
		担当者名	金田幸三	内線	2521
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	姉妹・友好都市交流（07-64-50-01）				
事務事業の種類	新規事業（19年度 18年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	56 年度	根拠		
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	国内・海外都市との交流の推進[09-02]			
目的	生活環境や地域文化の異なる地域の人々との交流を深めることにより、区民に豊かな自然とのふれあいの場を提供し、区民の心の豊かさや相互の町の活性化を図る。				
対象者等	区民				
内容	<p>秩父市（平成17年4月1日合併・旧荒川村）：リンゴとS Lの旅（公募区民等によるリンゴ狩りとS Lの旅：勤労者サービスセンターで実施し、その費用の一部を補助する。）「区民リンゴ園」リンゴ狩り事業（平成3年度に姉妹都市提携10周年記念事業として始まり、平成8年度より区民が実費を支払い、各自で収穫を行ってきた。事業開始から14年が経過し、旧荒川村及びりんご園の意向により平成16年度で事業終了とする。）</p> <p>大多喜町：たけのこ狩り（公募区民等による竹の子狩りを行う農業体験：勤労者サービスセンターで実施し、その費用の一部を補助する） 大多喜お城まつり参加（ステージ出演団体＜天王太鼓つくも会＞を派遣。区職員がバスで引率する。）</p> <p>鴨川市：ふるさといきいきSEA FESTA IN KAMOGAWA参加（出店団体＜都電の街グループ＞に謝礼を支払い派遣）、区長式典出席</p> <p>上越市：上越市観光と物産展参加（出店団体＜都電の街グループ＞に謝礼を支払い派遣）</p> <p>桑折町：こおり桃源郷「桃の郷まつり」参加（出店団体＜都電の街グループ＞に謝礼を支払い派遣）</p> <p>福島市：収入役ほか13名、区長を訪問（桃のキャンペーンと桃の試食）及び女性団体消費者懇談会、福島市から桃の花枝寄贈（区内小学校、公共施設等配付）、うつくしま地域間交流シンポジウム区長出席、防災協定調印</p>				
経過	<p>秩父市（旧荒川村）17.4.1合併（S56姉妹提携、H7防災協定）、北杜市（旧高根町）16.11.1合併（昭62年から交流）、上越市（旧吉川町）17.1.1合併 昭62から交流（H7防災協定）、大多喜町 昭63年から交流（H7友好都市提携・防災協定）、鴨川市 平成元年から交流（H3友好都市提携・H7防災協定）、福島市、桑折町、石川町 平成6年から交流（福島市H18防災協定、石川町H8防災協定）、釜石市 平成10年から交流（H11防災協定）</p> <p>他に、新潟県荒川町、富山県射水市（旧下村）、山形県鮭川村、茨城県潮来市、福島県二本松市（旧東和町平成17年12月1日合併）、福井県、福島県小野町と交流を行っている。</p>				
必要性	<p>自然環境、街並み、伝統、生活文化などが異なる都市との交流によって、豊かで活力に満ちた区民生活を実現、我がまちへの愛着と誇りを醸成する契機となる。特産品、観光資源、イベントを介しての人、モノ、情報の行き来により区内の産業振興と観光振興、地域の活性化の効果や、教育、文化、スポーツ交流により区民の視野を広げ、技能や質の向上、団体や団体活動の活性化が期待できる。環境問題や保健福祉問題など共通する行政課題をテーマとする交流により情報交換や先進事例を取り入れることも可能となる。また震災等災害時の相互支援体制が強化できる。</p>				
実施方法	<p>（ 直営 一部委託 全部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ）</p> <p>秩父市：リンゴとS Lの旅（勤福センターへの補助事業、バス借上げ代1台分の1/2相当を補助）平成11年度から（17年度はひょう害のため中止） 大多喜町：竹の子狩り（勤福センターへの補助事業、バス借上げ代1台分の1/2相当を補助）平成11年度から 福島市：収入役ほか13名が、区を表敬訪問、桃の試食会およびキャンペーン。その他、各都市のイベントに団体を相互派遣している。</p>				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	
予算額	981	931	803	679	663	969	1,526	
決算額（19年度は見込み）	619	505	548	535	238	528	1,526	
人件費					3,924	4,538		
【事務分担量】（%）					60	60		
合計（+）	619	505	548	535	4,162	5,066	1,526	
その他（特定財源）								
一般財源	619	505	548	535	4,162	5,066	1,526	
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	秩父市交流事業数	3	2	2	2	0	3	
	大多喜町交流事業数	2	2	2	2	2	2	
	鴨川市交流事業数	1	1	1	1	1	1	
	北杜市交流事業数	1	1	1	1	0	0	
	上越市交流事業数	2	1	1	2	1	1	
	桑折町交流事業数	1	1	1	1	0	1	
	福島市交流事業数	1	1	1	3	2	3	
	釜石市交流事業数	1	0	1	1	0	0	

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	まつりの出店団体謝	110	まつりの出店団体謝	134	まつりの出店団体謝	428
	職員旅費	交流事業調整、まつり参加	25	交流事業調整、まつり参加	150	交流事業調整、まつり参加	557
	食糧費	交流都市等訪問時賄	4	交流都市等訪問時賄	4	交流都市等訪問時賄	10
	一般需用	交流事業調整、まつり参加土産	10	交流事業調整、まつり参加土産	13	交流事業調整、まつり参加土産	284
	役務費	暑中見舞い用はがき	1	暑中見舞い用はがき	0	暑中見舞い用はがき	0
	使用料及び賃借料	大多喜町まつり参加バス・トラック雇上げ	39	大多喜町まつり参加バス・トラック雇上げ	120	大多喜町まつり参加バス・トラック雇上げ	130
	負担金及び交付金	交流事業補助（荒川村、大多喜町）	49	交流事業補助（荒川村、大多喜町）	107	交流事業補助（荒川村、大多喜町）	117

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値（22年度）	
	交流都市数	14	16	16	17	20	
	交流事業実施都市数	13	6	11	13	15	

（問題点・課題分析）	<p>より多様な交流のため、交流事業を文化交流推進課のみにせず、他の関係部課とも調整する機会を設ける。</p> <p>行政同士の交流にとどまらず、住民相互が交流し、各都市を体感できるような企画を検討する。</p>
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
関係部課による連絡調整会議を設置し具体的な交流内容を検討する。	各都市との幅広い交流ができる。
訪問バスツアーをはじめとして、産品・グリーンツーリズムなど、単なる観光に終わることなく各都市の魅力・特典を実感できるような事業を企画・検討する。	区民が年間を通して各都市と交流ができるようになる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
A	A	交流資源を掘り下げ、区民主体の事業を今後も積極的に展開する。

議会議況（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名	国際交流協会補助	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	正木良一
		担当者名	浦田寛士	内線	2526
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	国際交流協会補助（07-68-33-01）				
事務事業の種類	新規事業（19年度 18年度）	建設事業		それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成 5年度	根拠法令等		荒川区国際交流協会補助金交付要綱	
終期設定	有 無				
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	国内・海外都市との交流の推進[09-02]			
目的	荒川区国際交流協会を支援することにより諸外国との友好交流を推進するとともに区内在住外国人を支援し、相互理解を深め、荒川区を世界に開かれたまちにしていく。				
対象者等	荒川区国際交流協会				
内容	<p>荒川区国際交流協会の概要 設立 平成5年10月21日 組織 理事：12人、事務局：5人（区職員兼務）、監事：2人 役員 理事長：岡本義雄 副理事長：三嶋重信（副区長） 常務理事：小林清三郎 事務局長：佐藤安夫（部長） 会員 賛助会員：78件（団体・企業18件、個人60人） 協力会員：328人（日本人305人、外国人23人） 目的 諸外国との国際交流を民間レベルで行うとともに、区内における、様々な人々の国際的相互理解と友好交流を推進する拠点として設立 事業（開始年度）、人数等は18年度実績</p> <p>在住外国人支援事業 ・外国人のための日本語教室（13年度：5～12年度では区事業）…年間132回（66回×2コース） ・外国人無料専門家相談会（14年度）…18年度は行政書士による相談会のみ実施 月1回（後援事業） ・留学生等への生活用品支援（6年度）…年2回（4月10日）、ボランティアからの寄付物品を日本語学校等に配布 世界の国々との交流事業 ・オレゴン州立大学研修生受入支援（13年度）…1人、ウィーン大学研修生受入支援（17年度）…3人 ・ドナウシュタット区児童生徒絵画展（5年度）…小学校の図画工作展、中学校の作品展に同時展示 ・ドナウシュタット区の高校生受入（6年度）…6人、ドナウシュタット区への高校生派遣（9年度）…6人 ・荒川区・済州市友好交流写真展「済州とともだち」（17年度）…5日間、952人 ・【18年度】ウィーン市ドナウシュタット区区民ツアー、大連市中山区区民ツアー、済州市区民ツアー、済州市での荒川区写真展、ドナウシュタット区友好提携10周年記念事業（コンサート2回、レセプション、ドナウシュタット区展） ・【19年度】ウィーン市ドナウシュタット区柔道交流</p> <p>区民相互の交流事業 ・川の手荒川まつり参加（6年度）…パネルによる友好都市紹介と協会パンフレット等の配布 ・日本語スピーチコンテスト（7年度）…発表者11人 ・国際交流サロン（6年度）…盆踊り：外国人15人、日本人7人 ・国際交流バスハイク（6年度）…ヤクルト茨城工場、グリーン-ル那須、南が丘牧場、外国人28人、日本人9人 ・茶道教室（13年度）…月2回、延べ123人（17年度） ・着付教室（14年度）…延べ14人 ・外国人学生ホームビジット（6年度）…12組24人 国際理解事業 ・日本語サロン（10年度）…週1回×2コース、ボランティアによる自主運営 ・日本語ボランティア養成講座（6年度）…36回（18回×2コース）、前期修了者24人 ・東京外国語大学公開教室「世界のことば」（9年度：昭和61年～平成8年度区実施）…外語大国際交流会館移転により17年度で終了 広報調査事業 機関紙の発行（5年度）…17年度より「関係団体ニュース」、事務局たより（月1回）、荒川区産業展（9年度） その他 ボランティア通訳の派遣、翻訳、各種公共・民間等主催事業の共催・後援・協力など</p>				
経過	自主財源は会費及び事業収入等で、12年度までは総収入の15%程度であったが、区の補助金減少、賛助会員の増強や新たな受益者負担により、15年度以降は45%程度であった。17年度は済州市、大連市中山区との友好都市提携に伴う、区補助金増のため、自主財源率は38%となった。18年度予算ではドナウシュタット区訪問等経費増による区補助金増により、自主財源率は22.1%である。				
必要性	区の国際交流事業を担っている団体であるため、支援は不可欠である。				
実施方法	（ 直営 一部委託 全部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 協会より派遣依頼を受け、区民生活部長は事務局長、課長は事務局次長、都市交流係員は事務局員として兼職。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	
予算額	4,214	4,003	3,843	3,690	5,147	11,632	6,547	
決算額（19年度は見込み）	4,027	3,956	3,546	3,629	4,864	11,632	6,547	
人件費								
【事務分担当量】（%）								
合計（+）	4,027	3,956	3,546	3,629	4,864	11,632	6,547	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	4,027	3,956	3,546	3,629	4,864	11,632	6,547	
実績の推移	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	
協力会員（件数：団体+個人）	238	263	303	280	303	328		
賛助会員（人数）	102	115	121	136	144	78		
補助金の協会事業に占める割合	70.1%	60.1%	55.2%	54.2%	65.3%	58.2%		

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		負担金補助及び交付金	国際交流協会補助	4,864	国際交流協会補助	9,530	国際交流協会補助

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値(22年度)	
	協力会員数	280	303	328	-	400	
	賛助会員数	136	144	78	-	200	個人+団体数
	区民ツアー実施都市数			3	-	3	

問題点・課題 (指標分析)	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流協会の会費収入や事業収入等、自主財源率の向上に努め、財政基盤を確たるものとする。 外国人住民の増加に対する需要に応えるため、区関係課やNPO、関係機関との連携・協力体制を強化する。 ボランティアの育成・研修および交流の機会を設け、組織化を図る。 平成17年11月に区が策定した「荒川区都市間交流に関する取り組み方針」および友好都市の意向を踏まえて、具体的な交流の進め方や継続的な交流のあり方について検討する必要がある。
	他区の実況 （実施 11 区 未実施 区） 東京都国際交流団体連絡会議

問題点・課題の改善策検討	
平成20年度以降に取り組み具体的な改善内容	改善により期待する効果
ウィーン派遣高校生候補者募集条件に、受入を取り込む。	派遣高校生だけでなく、家族全体での交流が深められる。 一般公募で大学生の受入のみ対応できる。
協会事業の周知するため、区HP・区報・CATVを積極的に活用する。	協会事業の理解を深めるとともに、協力・賛助会員数を増やすことにつながる。
海外都市交流区民ツアーを実施する。 (ウィーン・大連市中山区・済州市)	区民・民間レベルでの交流が深まる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
A	A	区民主体の国際交流の推進母体として支援が必要である。

議会議案 (要旨)	
--------------	--

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名	海外都市交流事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	正木良一
		担当者名	浦田寛士	内線	2526
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	海外都市交流事業(07-68-66-01)				
事務事業の種類	新規事業（19年度 18年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	5 年度	根拠法令等	平成8・17年度 友好都市提携	
終期設定	有 無	年度		平成9年度 国際化推進員設置要綱	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	国内・海外都市との交流の推進[09-02]			
目的	海外の友好交流都市等との行政間の交流を図るとともに、区民の草の根の交流を支援するため、海外都市との連絡・調整を行う。				
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ドナウシュタット区（オーストリア共和国ウィーン市）...平成8年10月21日提携 ・済州市（韓国済州道）...平成18年2月17日提携 ・中山区（中国大連市）...平成18年3月10日提携 ・コーバリス市（アメリカ合衆国オレゴン州） 提携調印は無し ・その他 北京市通州区、シンガポール等 				
内容	海外友好都市等との都市間交流、連絡、調整及び相互訪問等 ・ドナウシュタット区：区立諏訪台中学校とシモンズガッセ2か国語中学校とのメールによる交流、ウィーン大学生の荒川区での研修受入（参考...東京荒川ライオンズクラブとウィンドナウライオンズクラブとのクラブ提携） ・済州市：17年度友好都市提携後の交流のあり方調整（区民ツアー等） ・中山区：17年度友好都市提携後の交流のあり方調整（区民ツアー等） ・コーバリス市：オレゴン州立大学研修生受入				
経過	<ドナウシュタット区> ・4年度 児童生徒絵画展（以後平成11年度を除き毎年） ・5年度 荒川区長ドナウシュタット区（以下、ド区）訪問 ・6年度 ド区高校生受入（以後11、14年度を除き毎年） ・7年度 荒川少年少女合唱隊ド区訪問 ・8年度 友好都市提携・ド区長来区、荒川公園で記念植樹 ・9年度 荒川区高校生ド区へ派遣（以後毎年） ・13年度 提携5周年記念荒川展ド区で開催、南千住駅東側にドナウ広場・ドナウ通り完成、区民ツアー（協会事業） ・14年度 ド区代表団を迎えドナウ広場で彫刻「ドナウの調べ」除幕 ・18年度 友好都市提携10周年記念事業、区民ツアー ・19年度 荒川区柔道会ド区訪問 <済州市> ・17年度 済州市市制施行50周年記念式典に荒川区議会副議長ほか出席、両区・市長の相互訪問、友好都市提携、済州写真展開催 ・18年度 荒川区写真展（済州市と共催）を済州市で開催、代表の相互訪問、区民ツアー（協会事業） <大連市中山区> ・17年度 両区長の相互訪問、友好都市提携、荒川区産業展において大連文化展開催 ・18年度 友好都市提携調印式（中山区）、代表団相互訪問、産業交流（日暮里ファッションショー・産業展）、大連市少年野球チームの小学校訪問と区少年野球チームとの交流試合（大連ウィーク）、区民ツアー（協会事業） <コーバリス市> ・4年度 児童生徒絵画展（以降7年度まで相互開催） ・5年度 コ市長夫妻荒川区訪問 ・6年度 荒川区長コーバリス市訪問、荒川区職員研修生コ市派遣 ・9年度 オレゴン州立大研修生受入（2名11年度・15年度を除き毎年1名来日） 9年度以降は大学との交流のみ <その他> ・シンガポール：区立中学生2年生をシンガポール・マレーシアに派遣（昭和59～平成10年度）、中学生派遣10周年記念でシンガポール・マレーシア小中学生受入（7～13年度） ・北京市通州区ほか：小中学生の学校訪問による交流など				
必要性	荒川区の友好都市との交流事業(済州市、中山区との新たな交流体制の構築、ドナウシュタット区との交流促進)ほか区の国際化事業を推進する。				
実施方法	(直営 一部委託 全部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) ウィーン大学・オレゴン州立大学研修生の受入を除き、交流事業は基本的に荒川区国際交流協会が実施。				

		(単位：千円)						
予算・決算額等推移		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
		予算額	2,957	4,256	2,797	2,748	9,565	18,399
	決算額(19年度は見込み)	2,438	4,108	2,673	2,573	9,207	14,395	16,292
	人件費					5,171	5,124	
	【事務分担当】(%)					60%	60%	
	合計(+)	2,438	4,108	2,673	2,573	14,378	19,519	16,292
	国(特定財源)							
	都(特定財源)							
	その他(特定財源)							
	一般財源	2,438	4,108	2,673	2,573	14,378	19,519	16,292
実績推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	海外出張旅費支出人数	1	1	0	0	20	30	
	海外受入団体数	3	2	1	2	6	4	

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
	報酬	国際化推進員報酬	2,190	国際交流推進員報酬	5,050	国際交流推進員報酬	7,762
	共済費	国際化推進員社会保険料	255	国際化推進員社会保険料	560	国際化推進員社会保険料	962
	報償費	交流事業コーディネーター	850	交流事業コーディネーター	453	交流事業コーディネーター	720
	旅費	交流都市訪問等	3,475	交流都市訪問等	5,807	交流都市訪問等	5,361
	食糧費	訪問団等賄い	1,709	訪問団等賄い	1,767	訪問団等賄い	700
	一般需用費	交流都市訪問団賄・記念品	369	交流都市訪問団賄・記念品	151	交流都市訪問団賄・記念品	210
	役務費	翻訳・通訳	319	翻訳・通訳	228	翻訳・通訳	417
	使用料	調印式会場使用料	40	現地バス借上	381	現地バス借上等	160

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	
標	訪問回数	0	5	5	-	-	荒川区 交流都市
	受入回数	2	6	4	-	-	交流都市 荒川区

（問題点・課題）	平成17年11月に策定した「荒川区都市間交流に関する取り組み方針」及び友好都市の意向を踏まえて、各都市ごとに具体的な交流の進め方や継続的な交流のあり方について検討する。
他区の実況	（実施 20 区 未実施 区） 姉妹・友好都市提携状況

問題点・課題の改善策検討	
平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
・ドナウシュタット区との交流 19年度柔道交流を皮切りに、文化・スポーツ・教育面でのさらなる交流事業を展開する。	文化・スポーツ・教育等の分野における交流が深まる。
・濟州市との交流 友好都市提携を契機として、観光を中心とした交流事業を展開する。	観光分野における交流事業を通して、交流が深まる。
・大連市中山区との交流 友好都市提携を契機として、産業を中心とした事業を展開する。	産業分野における交流事業を通して、交流が深まる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
A	A	国際理解、文化振興のため、大きく貢献する事業である。

議（要旨）	・18年二定 今後、都市間交流を進めていくにあたっての区の考えについて
-------	-------------------------------------

事務事業分析シート（平成19年度）

No1

事務事業名	国際交流高校生サミット	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	正木良一
		担当者名	浦田寛士	内線	2526
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（19年度）	海外都市交流事業(07-68-66-01)				
事務事業の種類	新規事業（19年度 18年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	19年度	根拠	区制施行75周年記念事業	
終期設定	有 無	19年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	国内・海外都市との交流の推進[09-02]			
目的	荒川区と交流のある海外・国内の都市から高校生を招き、区内の高校生との意見交換の場を設け、同じ世代を生きる高校生として相互理解を深めるとともに、海外での社会貢献活動など国際交流の場で活躍する著名人による講演会を開催し、区民の国際交流への理解を深める。				
対象者等	(1) 国内交流候補都市（4都市予定） 秩父市・鴨川市・福島市・つくば市 (2) 国外交流候補都市（7都市予定） ウィーン市ドナウシュタット区・大連市中山区・済州市・オレゴン州コーバリス市 北京市通州区・シンガポール・マレーシアジョホールバル市 以上の各都市高校生2名と引率者1名、荒川区高校生5名程度				
内容	8月14日から19日の6日間のサミットプログラムで、次の2点をメインイベントとし、この他にレセプション、区長表敬訪問、施設見学、茶道体験等を通して相互交流を図る。 1 国際交流高校生サミット (1) 期日 平成19年8月16日（木） (2) 場所 ADEKA新本社ビル 14階会議室（東尾久7-2-35） (3) テーマ 「私たちにとっての豊かさ・幸せ」 (4) 内容 テーマについて各高校生が発表し、その内容について議論する。 2 国際交流講演会 (1) 期日 平成19年8月17日（金） (2) 場所 サンパール荒川 3階小ホール (3) 講師 北澤豪氏（元プロサッカー選手） (4) 内容 区長挨拶 国際交流高校生サミットの概略版を放映 国際交流高校生サミット参加者による共同宣言の発表 社会貢献・国際交流についての講演				
経過	・平成19年2月22日 庁議承認 ・平成19年2月28日 助役決定				
必要性	荒川区の未来を担う高校生が、サミットプログラムを通して国際性と多文化共生の意識を育くむとともに、区の国際交流事業に理解と協力を得るため。				
実施方法	（ 直営 一部委託 全部委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 国際交流高校生サミット運営業務委託契約				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	
予算額							25,100	
決算額（19年度は見込み）							25,100	
人件費								
【事務分担量】（%）								
合計（+）	0	0	0	0	0	0	25,100	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	0	25,100	
実績の推移	事項名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
	参加都市数							
	参加人数							
	記念講演会来場者数							

事務事業分析シート（平成19年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成17年度（決算）		平成18年度（決算）		平成19年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	委託料					国際交流高校生サミット 運営業務委託	25,100

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (22年度)	
標	参加都市数				10		
	参加人数				30		
	記念講演会来場者数				250		

（問題点・課題分析）	・サミット終了後のフォローアップ事業
実施状況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成20年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
区内高校生をサミット参加の交流都市へ派遣する。	相互に訪問することにより交流が深まり、国際性豊かな若い人材が育つ。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
	B	交流事業の活性化につながる事業である。（周年事業）

況議会（要質問旨）	・18年三定 「荒川・友好都市・子供サミット」について
-----------	-----------------------------